

雜 錄

大正十四年々末獨逸鐵市場の狀況

(獨逸鐵鋼協會報告ニ依ル)

今 泉 嘉 一 郎

本文ハ最近ノ獨逸鐵市場ノ情況殊ニ獨逸鐵鋼業者並ニ之ニ關聯シテ鐵鑛又ハ石炭ノ鑛業者ガ如何ニ租稅其他ノ負擔就中社會政策的ノ重荷ニ依テ生産費ノ増加ヲ訴ヘツ、アルカ同時ニ如何ニ國際間ノ競争ニ苦ミツ、アルカラ稍詳細ニ知ルコトヲ得ルモノト認メ近着ノ獨逸スターールアイゼン誌ヨリ譯出シテ各位ニ頒ツモノナリ。

◎一九二五年十一月獨逸鐵市場の狀況

「ラインランド」、「ウエストフアーレン」兩州

「市場の狀態漸次好望に向ふ可しと確信し得る迄には尙相當の時日を俟たざる可からず」とは前回の10月報告に於て吾人が言明したる所であるが今月に至つて益々其言の正鵠を得たるを確かめた、即ち今月に於ては一般の商狀が會て想像されたより以上に混亂して來た。夫は一面に於て幸に**販賣稅**が二分の一%遞減されたけれども他面**社會政策的負擔・鐵道運賃・銀行利息**、及諸般の**物價**は依然として從來の高率に居据はり居るを觀ても想像さる可し、先月(10月)に於ては全月を通して**破産申請數**1139件營業監視582件なるに對し今11月は前半月15日間に於て既に破産申請 634件、營業監視459件を數ふるに至つた、又保護を要する**失業者**の數は先月15日に於ては29萬9000人であつたものが今11月1日には36萬4000人となつた、而も11月15日に至つては益々増進して47萬4000人になつた、又鑛業組合の發表する所に據れば1923年の3月から1925年の7月に至る迄に事業休止をなしたる者31鑛業にして夫れに殉したる坑夫の數1萬1365人を數へ其後8月より11月央ばに至る迄更に17鑛業と是に伴ふ2萬3887人の坑夫の休業を増加するに至つた、尙其後續々として廢業の數を増加しつつある。

物價指數の變化狀態は次の如くである。

第一、大商業品物價指數

1月の平均	1382	6月の平均	1338
2月 同	1365	7月 同	1348
3月 同	1344	8月 同	1317
4月 同	1310	9月 同	1359
5月 同	1319	10月 同	1287

11月 4日	1207	18日	1210
11日	1199	25日	1227

第二、生活必需品物價指數

5月の平均	1355	8月の平均	1450
6月 同	1383	9月 同	1449
7月 同	1433	10月 同	1435

是に依て觀るも**鋼鐵製品の生産費**は當分低下する如き見込皆無と云ふの外はない、殊に生活費の昂進が尙繼續する状態であるより見ても解かる、此の如き關係以外に尙ほ屢々繰返して言明した通り税制の壓迫の如何にも甚しきことが吾が經濟状態の改善に對する、最も重大なる障碍である即ち1913年の例では獨逸國民は其總收入の中より國家州及び其他の公共團體の爲めに租税其他の公納金として11乃至12%を納附するに過ぎざりしが1924年に於ては23%を納附した名譽樞密顧問カストル氏が今11月19日エルバーフェルトに於ける鐵鋼工業組合の會議に於て發表したるが如く斯く國民收入の全額の2割以上となる所の租税の中より其七割乃至7割5分に相當する額が官公吏の給料並に年金等に使用されて居り、此の如き租税政策の自然の結果として國家は必要なる需用品さへ調達するの力を失ひ又多くの産業會社は斯かる租税重荷あるが爲めに是無くば相當の利益を生し得べき充分の希望を有する作業さへも破滅に委し其他大部分の經濟團體は悉く貧血状態を呈出し其健全なる發達の如きは全く疑問に終ることになつた、ケルニツシエ、プロルクス、ツアイツング紙の言ふ所も亦正當の評論である、同紙は曰く「今日民間事業が窮況に陥り政府に向つて金鐵上の保護を要求するに至つた事實を見れば以て吾が今日の經濟状態の如何を察するに足る。當初何人も斯くある可しと豫想した事實が今日は隱微に而かも痛切に發現して來た、即ち一面に於て政府の金囊は充滿しても當局者は之に適當に處置するの道を知らず他の反面に於て國家の經濟は地に落ち吾人が曾て誇りとなしたる強盛なる企業精神は全然哀むべき殘骸となつて政府の取りたる經濟政策の不明に對する嘲笑的對象物となりつゝある、吾政府の經濟政策は一般經濟の状态に適應して適當の處置を取るには餘りに遲鈍である」

工業の上に如何に大なる負擔が置かれてあるかを最も明瞭ならしむ可き一例として**ゲーテホフヌング製鐵所**が發表したる所を示せば、同會社が1913年乃至1914年に涉る1年度に於て支拂ひたる租税230萬マーク、社會政策的支出270萬マークなりしものが、1924年乃至1925年に涉る1年度に於ては租税1090萬マーク、社會政策的支出500萬マークとなつた。

事態此の如くなるが故に一般納税者の間に於て一の希望を生ずるに至つた、夫は公共團體の收入及支出に付ては明細なる統計表を公開すべしと云ふことである、更に又各方面に於て納税には最大制限を設定す可しと云ふ要求を生ずるに至つたのである、此納税最大制限設定の事は曾て産業税の非常なる増加をなした紙幣亂發時代に於ても經濟界一般の痛切に感じた所であつた、斯く一般的に納税最大限を決定することは出来るなら結構な事であるが是は實際上實行不可能の事であらう目下整理せられつゝある新税制が産業の負擔を何程輕減し得べきかは甚だ疑問である、本月も亦税の輕減殊に販賣税

の軽減が生産費低下の上に何分か助となる可しとの希望は裏切られたれ、今日迄行はれた如き僅少なる減税などは生産費の上に何等見るべき效力を有するものではない、殊に一面に於て官公吏の俸給を著敷増加することを計畫し又之に依て民間の労働者又は従業員までが彼等の關係を向上すべく刺戟されることになつたならば生産費低下など到底見込なきことである、官公吏俸給の増加及び俸給税の低減など云ふことは實は他の租税を増加する事によつて均衡せらる可き事柄である、若し此の如く生産の負擔たるべき課税を軽減するどころか寧ろ増加するが如き事を行ふに於ては生産費の増加することは避く可からざる當然の結果である、次は社會的負擔であるが是は何れにしても今後尙大に増加すべきこと確實である、是に付ては10月報告に於て述べた事に左の一事を加ふべきである、即ち國定共濟法に依て成立したる負擔は労働者側にも亦雇主側にも同様に非常なる壓迫であつて工業殊に鑛山業の衰滅は殆んど是に基因さるべし。實例を擧ぐれば「ジーガーランド」州に於ては國定共濟法の結果として労働者側及雇主側が共力して負擔すべき養老、廢疾、及び病氣保險並に失業扶助(失業扶助法は1914年に於ては未だ施行せられざるものであつた)に對する出費が1914年に於ては労働者1人1月當り 11.28 マークなりしものが1925年の10月1日に於て 39.72 マークとなり尙注意すべきは1913年12月31日に於ては 2萬2299人の被保險者と之に對し 1萬1886人の救助金受領者有りしに比し1925年10月に於ては 1萬7000人の被保險者と之に對し 1萬7415人の救助金受領者を有した事である、殊に雇主に對しては此大なる負擔が更に増加さるゝこととなりしは雇主のみにて支出すべき工場傷害救助組合に對する費用である。右に依り雇主の負擔は合計 42.63 マークに上つた、國定共濟法の結果としての労働者の負擔を見るにラーン地方に於ては戰前職工 1 人の共濟組合に對する 1 ヶ月の支出 2.8 マーク乃至 3.3 マークなりしものが今日は 9.95 マークとなつた。此共濟金以外に尙各種の共同的保險に對する會費等があつて 1 人の支出合計 16 マークとなつて居る、是はラーンの鑛山業に従事する職工 1 人の 1 ヶ月の給料 100 マークに對しての負擔である、又同地方の雇主側の負擔は職工 1 人に付 1 ヶ月 20 マークの支出を要するのである。

ルール地方の炭坑業の負擔する社會政策的支出は戰前に比して今日の増加は左の通りである。

採掘石炭 1 噸に付

戰前 (1913年乃至1914年) 0.42 マーク

1925年 1.17 マーク

増 加 率 178. %

又坑夫 1 人當り 1 年に付

戰 前 126.18 マーク

1925年 311.05 マーク

増 加 率 146. %

即ちルール炭坑地方に於ては坑夫 4,000 人を有する炭坑は今日では社會政策的負擔として 1 ヶ月少く

とも10萬マークを支出しなければならぬ如何に社會政策的負擔の重荷たるを觀る可きである。

何人と雖も苟も經濟的に且公平に考へる人なら直に疑を生すべきは、一體今日の如く死活の境に立つ鑛業而かも夫は一般産業經濟に對して最も重要なる鑛業が此の如く甚しき負擔に苦めらるゝ立場に至りたることに付ては一體如何なる責任的解釋に基くものであるかと云ふことである、企業家殊に企業を中心となる人々が今や正に此生存競争の裡に立つて労働者の給料又は政府の税金さへ其才覺に困難しつゝありながら尙其上に斯かる重荷たる社會政策的負擔を負はねばならぬことに付て強烈なる批難をなすこと元より當然である、尙茲に注意すべきは國定共濟法の規定せる事柄であるが、同法第25條及第26條に據るときは鑛山業に従事する労働者即ち坑夫は25年間勤め其中15年間主として坑夫の仕事に就て居つた者は年齢50歳に達して最早他に同額の俸給を得る途なきに至つた場合其仕事を止め即ち廢業者となつて養老金を受領する規則である、此規則あるが故に前記のジューガーランド州の數字から觀ても判るが如く救助金即ち養老金受領者の非常に殖へて來た事は尤のことである、何故此の如き法律が出来たかは元來譯の判らぬことである、假令坑夫の仕事は勞苦の多い仕事とは云ひながら50歳になつたら養老金を受取ると云ふことは寧ろ隱居することを獎勵するが如きものであつて猶生産力有るものをして反つて遊惰に陥らしむる結果を生ずることは他の經驗に依て充分判つたことである。此結果色々の方面に其害毒を現はすであらうが殊に鐵鋼業に對しては鑛石石炭の價格を夫丈け高くすることになるのである、無論鑛石や石炭を他人から買ふとしても自分の山から採掘するとしても同じである又政府では今や失業保險と云ふことを計畫されて既に其案も出來て居ると云ふことであるが是等も亦産業の負擔増加する結果となる事は明かなことである。

次は**關稅及通商政策**に關することであるが獨逸及西班牙の間に於ける通商條約は一旦交渉を開始したけれども遂に不成立に終つた、其處で西班牙は獨逸よりの輸入品に對し今年9月以來關稅定率法の規定せる最大限度の定率に更に8割を増加課稅することになつた、殆んど是は獨逸品の輸入を禁止するも同然のことである、獨逸政府も亦之が對抗策として西班牙から來る最も重要なる輸入品に對して重稅を課することになつた、此の如く破裂した關稅戰爭は11月18日迄繼續して11月18日に於て兩國の間に暫定法を造ることになつた、此暫定法に據ると獨逸は西班牙から最惠待遇は許されないが其稅を多少輕減さるゝことになつた、即ち西班牙は獨逸品に對して稅率を一段下げることになつたが尙ほ英吉利佛蘭西其他の國に對する待遇とは比較にならぬものである。故に獨逸の生産品を西班牙に輸出する場合は是等諸國に比して、より大なる重荷を有し到底競争爲し難き状態に在る、尙其上に獨逸側に不利なるは此暫定法の期間の短きことであつて西班牙から其農産物等を獨逸に輸入するには格別不便もないことであるが西班牙を相手とする獨逸の輸出業即ち機械工業又は紡績工業に對しては價格計算さへ困難であつて殆んど其條約が獨逸側に取つては價值なきものである、西班牙との通商は何うしても他の諸國に許されたと同様なる待遇を以て多少長期に渉る條約ならざる以上は商賣は出來ない、暫定協約は此の如く單に西班牙の經濟を利益するのみである、西班牙との關係のみならず獨逸政府の

優柔不斷なる態度は總ての諸外國との其れに於て獨逸の體面を害すること甚しきものである、希臘は1926年2月7日を以て期限とする獨逸との暫定條約を期限通りにて打切ることを通告して來た又瑞西は11月6日を以て暫定條約を調印することになつたが12月に於て更に本條約の談判を開始することになつて居る、英國との條約は11月9日談判を開始した、是は此前の英獨通商條約以來附加せられて居る英國の保護關稅を低減することを目的とする所の條約改正である、波蘭では獨逸品の輸入禁止を3ヶ月間延長した後1926年1月1日より施行する新關稅定率を公布した、夫に據れば現行關稅定率を更に増加するものであつて就中鐵鋼製品に對して著しく増率するものである、聞く所に依れば波蘭は25萬噸の石炭を獨逸へ無稅輸出を爲す事の基礎の下に獨逸との通商條約を更に開始する計畫の由である。是に對して獨逸側の希望としては10萬噸より讓れぬことになつて居る。

企業合同 一の範圍に關して述べれば今月は格段なる出來事はなかつた、棒鋼組合に對してウキツテン製鋼所及ボルジツヒ工場が參加することになり、厚鋼板組合にも亦一二の新らしき參加者を見、此兩組合は之に依て一層強固のものになつた、帶鋼組合は既に10月27日に於て今年12月終り迄從來の價格及條件を以て製品を取賣することを決議した、其他の各販賣組合は多く從來の價格に留ることとなり就中素鋼組合は3割5分の生産減を12月にも尙繼續することを決定した今般更に線材加工品組合なるものを新設することに就ての相談は順調に運びつゝある然し未だ決定的のことを報告するに至らない。是に對しては一二の小工場の反對あるため交渉を残して居るが夫れは遠からず決着を見るであらう、造船用鋼材業の提携組織計畫に就ては主なる者の間には既に原則的には一致して居る、最後に國際間の製鐵業者間に於ける提携問題に就ては今の所中止の姿となつて居る、11月終りにフランクホルトに於て開かれた國際のパイプ製造業者提携問題の交渉會是亦今日迄何等の結果を持來さず今は中止されて居る。

外國市場の狀況 今月は獨逸の製鐵事業が未だ曾て見ざる程度に於て外國品の競争に惱るされて居る、夫は爲替相場下落したる諸國が彼等の廉價なる多量生産の賣出を繼續するからである、佛蘭西のフラン貨幣が引續き低下しつゝあるが爲め佛蘭西製鐵業の世界市場に於ける位置を固めることが促進されて來た、安いフランの價格は生産工場の輸出を便ならしむるのみならず加工品工業の輸出をも便利ならしむる故に直接にも間接にも生産が利益を受けて居る、1925年の最初の8ヶ月間に於て佛蘭西の鋼材輸出額が127萬8000噸に達したる(1924年の同期間に於ては90萬噸であつた)、佛蘭西の専門家の豫定する所に依るときは1925年中の鉄鐵及半製品の輸出は合計230萬噸に達すべく尙此外鐵鑄物70萬噸の輸出が有る見込である、白耳義のフラン貨幣は多少強相場であるが故に白耳義從てルクセンブルグの工業は佛蘭西の如く有利には行かないが此兩國の工場とも充分の仕事を持つて居る、此の如き状態であつて獨逸國が内に在つては南獨逸方面に於てローレン又はザール兩州の競争を受け外に在つては外國市場に於てローレン、白耳義、ルクセンブルグ及びザールの競争に對抗する爲に如何に大なる價格上の犠牲を拂はざる可からざるを見るべく、此く非常なる獨逸製鐵事業の窮況に對し

ては租税、社會政策的支出、鐵道運賃の輕減等は是非共必要であるは説明を要せざる所である、兎も角今日の狀態に於ては他の方法に依て獨逸の生産費をフランの下落に對抗し得る様引下けること殆んど不可能である、役人の俸給、労働者の賃銀、鐵道運賃、租税、社會政策的支出、銀行利子等が今日の如き程度を保つ以上は生産費引下の如きは殆んど初めより無望の舉であると云ふの外はない、而して若し労働者の生活或は職業を維持するが爲め産業の負擔を低減する能はずとする以上産業竝に労働者の保護の爲め**輸入禁止**竝に**不當廉賣輸入税**の斷行まで進み行くの外他に採るべき途はない。

次は**内國市場の狀況**—内國市場は依然として弱氣である平時ならば最大の鐵需要者であるべき重工業が殆んど設備の新造若くは改造を行はず又加工工業竝に商賣人は只目前必要のものを購入する許りであつて其結果孰れの工場も概ね損失を重ねながら作業を繼續するのみ漸次一部若くは全部の作業中止者を續出する形勢である、殊にジーガーランド方面より到着したる報告の如きは憂慮に堪へざるものがある、即ち同地方鑄鑪29基の中僅かに8基丈け作業をなし而かも其内2基の大鑄鑪は近日中に中止せねばならぬことになつて居る、斯く多數の鑄鑪の閉塞に次ぎ鑛石採掘業の不振となり今日迄縮少された販路に於て兎も角經營を維持して來た僅かの鑛山さへも更に其數を減ぜざるを得ざるに至つた、殊にルール地方の鑄鑪でもジーガーランドより輸送する鑛石は今日の場合極めて僅少である故に一層如此悲境を呈することになつたのである、要するに各地一般に見て製鋼工場若くは壓延工場は大部分休止され従て銑鐵需要も非常に減少され其生産を差控ゆることになつた、斯様に制限されたる製銑製鋼の生産作業は利益を擧ぐることは勿論生産費を取り込むことさへも殆んど不可能である。

平均の販賣價格は別表に示す如くであつて10月に比して何等の變化はない。

尙市況に就て具體的に報告すべきもの次の如し。

本月中國有鐵道の交通は増加した即ち1日平均貨車約13萬輛、内ルール地方では石炭運搬に2萬3000輛(10連積)、其他貨物に5000輛を使用した、

ライン河交通狀態(省略)

労働市況—労働市況は今日に至つても依然として不況である。労働者の賃銀率は變らない、夫に反して鐵鋼業労働者の賃銀を4.7%増加すべしと云ふ判決が下された。此判決に對して雇主組合は今日の經濟狀態に鑑み之を峻拒せねばならぬことになつた、最後の判定は今日尙未定である。

ラインランドウニストフアーレン石炭採掘業—は今日に於ても亦多大の販賣困難と戦はざるを得なかつた、今や作業減縮及び之に伴ふ從業者解傭と云ふことが今日まで左様措置に出づるとより之あるまじと思爲された、方面にさへ波及することになつた外國石炭との競争の結果生ずる價格上の犠牲及び労働者賃銀問題に對する判定の結果賃銀約6%増加することより生ずる負擔増加等より察すれば此石炭採掘業の事業短縮と謂ふことは決して今日を以て終りたるものに非らざることを恐る。

内國の鐵鑛石市場—ジーガーランド、デイル、及ランー地方の鐵山に付何等喜ばしき事を報告するを得ない、狀況は依然として悲觀である、今日尙作業をなしつゝある僅少の鑛山さへも販路充分ならず

而かも事業を短縮してさへ夫れである、然しジーガーランドの各鑛山より關係省に對して哀願中の救濟事業は多分採用さるゝことゝ信せられて居る。

次に**壓延爐スラツグ、鍊鐵爐スラツグ、鍛鋼爐スラツグ**等一の價格は一層低下した。

外國鐵鋼市場一の商賣は今月は一般に甚だ閑散であつた、最近英國の工場が西班牙及北亞弗利加より大口の鑛石買入をなしたが其結果として普通の鐵鑛石が1噸6片乃至1志の騰貴をなした、然し獨逸の鑛石市場に對しては何等の影響を現はさなかつた反つて鑛石の價格殊に亞弗利加及西班牙產鑛石の價格は寧ろ低落の途を辿つた、其理由は是等の鑛石は燐素の含有乏しくして其需要甚だ少き故である、當地の各工場は從來の如く只其の持合せ貯藏鑛石を喰潰しつゝある状態である、兎も角一般の情勢は先物契約など許さぬ有様である、ちび々々の購入は10月に於て行はれた、此間に於てミネツテ鐵鑛の輸入はフラン貨幣下落の結果及ライン河の水路運搬の安値なる爲め稍活發であつた要するに今日の鑛石取引の不活發なることはトラスト組織の問題が尙解決されない状態に在る事が障礙をなしつゝあるが故に單に鑛石市場の需要供給のみに基因したものではないのである、尤も此狀況は急激に變更さるゝであろう、殊に海路運賃の如きも目下騰貴に傾きつゝある故遠からず今日の如き狼狽的低運賃を許さぬことになるからである滿俺鑛は其含有量高きものは市況堅固である、コーカサス滿俺鑛はハリマン企業の手に依て獨逸へ輸入さるゝことになつて居つたが目下正に着手された。

銑鐵市況一本月の銑鐵市況は寧ろ悪くなつて來た、需要は一般に減少した、其原因は鑄物及機械工業の不況なるにも原因するが第一の原因としては獨逸の經濟状態が殆んど救ふ可らざる金融困難に陥つた結果である、語を換へて言へば仕事の範圍と運轉資金との不調合の結果である、佛蘭西の銑鐵は依然としてフラン相場下落に依て勢を得獨逸に輸入され尙之に伴れて印度銑並に英國銑の輸入を見た、併し概して製鋼用銑鐵や鏡鐵の需要は格別に減少して來た。

外國市場に對する銑鐵商賣は稍活發になつたが夫れも今月央ば以後に於ては又幾分靜閑になつた、亞米利加物の價格騰貴は止んだが英國市場は先づ固定して居ると云ふべきである、銑鐵組合は來12月分の販賣に向つては値段を變更せず引受けた。

內國市場に於ける半製素鋼一の價格は西部諸工場の競争の結果組合相場を維持することが出来なかつた、輸出は忍ぶ可らざる損失價格(鋼塊1噸OB 4磅即ち工場渡75マルク)の爲めに實行することが出来なかつた。

型钢一は南獨逸を除いて一般に組合の內國相場を維持することが出来た、輸出に就ては損失價格の爲めに格別のことを爲すことが出来なかつた、棒鋼に就ては內國の商賣非常に閑散であつた、外國より來りたる強烈なる問合せは價格の安き爲め取引が不可能であつた。

大型のレール其他鐵道建設鋼材一は國有鐵道の註文に依て1-2ヶ月の仕事を得た、其れに反して鑛山用レールの商賣は甚だ振はなかつた。

鐵道用車輛車軸等の鐵道運轉鋼材一は是亦非常に不完全なる生産より成し得なかつた、獨逸

鐵道の需要は殆んど是なき爲め作業は長い間非常に減縮されて最早今日では作業を再び通常生産状態に回復することさへも甚しき困難を感ずることゝなつた、外國注文は多少引受けたが此仕事の閑散を些かも緩和することは出来なかつた、何故なれば外國の鐵道會社も今日は比較的少量の需要より無く又其需要を引受けんとしても他國との競争殊に第一番にフランの相場の下落した爲めに生ずる競争に向つては我生産品は多大の犠牲を拂はなければ其注文を取ることの困難であつた故である。

厚鉄—の商賣は是亦同様に不満足であつた、内國の需要は甚だ少く又外國商賣は全く皆無であつた

薄鉄—に付ては内國市場は殆んど恐るべき不良状態に置かれた、それは金融及信用缺乏並に之に依て生じたる支拂の不安と云ふことが此商賣を殆んど不可能ならしめたのである、外國向商賣に就ては稍以前に於ては幾分活動の氣味があつたがフラン貨幣が最近2—3週間に於て毎日下落を繼續した爲め外國注文を取ることが甚だ僅少になつた、一般に信ずる所に依れば佛蘭西の鐵價は此フランの相場と共に尙繼續するものと信ぜられて居る、獨逸工場多數は輸出業に就ては最早仲間入することが出来なかつた何故なれば其價格は到底生産費と比較にもならない程の低價にある故である。

鋼管—鋼管の市場は前月に比して些かも改良されて居らぬ寧ろ惡化して居る、工場の生産力に比して注文は尙常に不充分であつた、外國市場に對しても何等格段の變化を見なかつた、吾々は從來の如く將來も亦佛蘭西及白耳義の競争殊にフランの結果新たなる刺戟を受くるに至りし佛蘭西工場の投資に對しては最も強烈なる對抗戦を爲さねばならない、此の如く不満足なる注文状態に鑑み又鋼管のストックの増加を尙更に繼續せざる爲には獨逸の鋼管製造工場は更に續いて作業短縮をなすか或は進んで一定期間全然作業を中止せねばならぬであらう。

鑄鐵管注文も亦幾分減少した金融の逼迫が爰にも亦價格を少しく低下せしむることになつた、外國向の商賣は凡ゆる方面より猛烈に争奪された併し兎に角工場は今後1・2週間の所注文を有して居る。

線材及加工品—線材及加工品の商賣は内國に於ては需要甚だ少なかつた、今日に於て明春の先注文を爲さんとする如き者は殆んどない、商賣人も生産工場も此の如く長期の取引契約を爲すことは今日の場合何等格段の價格を認めて居らぬ、價格は一般に變化はない、只僅かばかりの商賣が安値を以て折々行はれたに過ぎない、線材加工品の輸出は一般に前月よりは稍増加した併し價格は夫れに係らず著しき低下を示した。

◎一千九百廿五年九月十月及十一月の價格表

(別に貨幣を示さず數字は一噸に付「マルク」を表はす)

	9 月	10 月	11 月
石炭及骸炭			
焚用石炭	14.50	14.50	14.50
骸炭用石炭	17.00	{ 16.92 16.00	16.00
鎔鐵爐用骸炭	24.00	{ 23.88 22.50	22.50
鑄物用骸炭	25.00	{ 24.88 23.50	23.50

鐵 石

炭酸鐵鑛 (テルケル)	15.75	15.67	15.67
焙燒炭酸鐵鑛	21.00	20.90	20.90
褐色鐵鑛 (ラーバーヘツセン産滿俺含有少きもの鐵41%, 珪酸15%, 水分5%を標準として山渡し代價)	10.00	10.00	10.00
褐色鐵鑛 (滿俺含有高きもの山渡し代價)			
1 級 品	13.00	13.00	13.00
2 級 品	11.50	11.50	11.50
3 級 品	8.00	8.00	8.00
赤 鐵 鑛 (ナツサウ産 鐵42%, 珪酸28%を標準として山渡し代價)	10.00	10.00	10.00
ミネツテ鑛 (ローレン産 鐵32%を標準としての「シーレック」は渡但佛價)	27.50法	30.00法	32.50法
ミネツテ鑛 (フリエー産 鐵37乃至38%) 但鐵を標準としての「シーレック」渡代價(佛貨)	37.50法	40.00法志	40.00法
ビルバオ、ルピオ鐵鑛 (但鐵50%ヲ標準としてロツテルダム港船着代價 (英價))	18.6乃至19.6	17.6乃至18.6	17.6乃至18.6
ビルバオ焙燒炭酸鐵鑛 (但銑50%を標準として「ロツテルダム」港船着代價) (英價)	15.6乃至16.志	14.6乃至15.6	14.6乃至15.6
アルジール鑛 (但鐵50%を標準としてのロツテルダム港船着代價 (英價))	17.9乃至18.9	17.6乃至18.3	17.6乃至18.3
マロツコリフ鑛 (但鐵60%を標準としロツテルダム港船着代價) (英價)	21.志	20.6	20.志
瑞典産無磷A級鑛 (但鐵60%を標準としナルウイック港船積渡) (瑞典貨)	16.50	クローネ 16.50	16.50
滿俺鑛 (但滿俺含有1%毎の代價アントワープ又ハロツテルダム港船着渡) (英貨)			
洗淨ホチ鑛	21.片以下	21.片以下	21.片以下
無洗淨ホチ鑛	19.片以下	19.片以下	19.片以下
印度産1級鑛	20.片	20.片	20.片
印度産2級鑛	18.片乃至18.片半	18.片乃至18.片半	17.片乃至18.片半
銑 鐵 (ラインランド、ウエストフアーレン州各工場渡)			
1 號 銑	90.00	88.00	88.00
3 號 銑	88.00	86.00	86.00
ヘマタイト銑	95.50	93.50	93.50
製銅用銑 (銅分少きものジーゲン渡)	91.00	88.00	88.00
ジーガーランド産轉爐用銑 (ジーゲン渡)	91.00	88.00	88.00
ジーガーランド産鍊鐵用銑 (ジーゲン渡)	91.00	88.00	88.00
ジーガーランド特殊銑 (ジーゲン渡)			
白 銑	110.00	107.00	107.00
胡 麻 銑	112.00	109.00	109.00
鼠 銑	114.00	111.00	111.00
鏡 鐵 (ジーゲン渡)			
滿 俺 6.乃至8.%	105.00	102.00	102.00
" 8.乃至10.%	110.00	107.00	107.00
" 10.乃至12.%	115.00	112.00	112.00
テンパー用銑 (白銑六型工場渡)	99.50	97.50	97.50

ルクセンブルク三號鑄物鐵(シーレック渡)	72.00	69.00	69.00
フェロマンガン(滿俺80%ラーバーハウセン渡)	295.00	292.50	292.50
フェロシリコン(75%)	21,磅乃至 21,10志	425.00	410.00乃至 415.00
フェロンリコン(10%)	124.00	121.00	121.00
壓延鋼材(市場材標準工場渡價格)			
鋼塊(ドルトムンド又はルーロルト渡)	105.00	104.25	104.25
大形ピレット(同上)	112.50	111.75	111.75
小形ピレット(同上)	121.00	119.25	119.25
シートバー(同上)	125.00	124.25	124.25
棒 鋼			
ラーバーハウセン渡	135.00	134.30	134.30
チユルキスミューレー渡	125.00	125.00	125.00
形 鋼			
ラーバーハウセン渡	132.00	131.25	131.25
チユルキスミューレー渡	122.00	122.00	122.00
帶鋼(ラーバーハウセン渡)	155.00	154.20	154.20
汽罐用鋼板(エツセン渡)	185.00	184.25	184.25
厚鋼板(5耗以上エツセン渡)	150.00	149.25	149.25
中厚鋼板(3耗乃至5耗)	152.50乃至 150.00	150.乃至 148.00	150.乃至 148.00
薄 鋼 板			
1耗乃至3耗	170.00	170.乃至 167.50	170.乃至 167.50
1耗以下	180.00	180.00	180.00
線材(ラーバーハウセン渡)	140.00	140.00	140.00
引抽キ銅線(ハンム渡)	160.00	160.00	160.00
引抽キ錫鍍銅線(〃)	200.00	200.00	200.00
螺釘及鉄釘用平爐鋼線(〃)	185.00	185.00	185.00
釘(〃)	165.00	165.00	165.00

第五十一議會に於ける製鐵問答(其二)

問者岩切重雄君 (前略)次に工業原料に對しての政策を承り度いと考へますが例へば此鐵の問題の如きは政府は如何にさるるのであるか、此度の御提案の中に於きましては鐵に對する政策は分りませぬ依然として其儘にしてある。是れは他の法案に依つて或は豫算の中に在るかも分りませぬが補助に依つて之をやると云ふ事であるが、果して之に依つて我國の鐵の産業、所謂鐵に對する原料政策と云ふものは確立さるるや否や、將來に於ては再び如何なる日が我國に來らんとも限らない、國防政策の上から考へましても、又工業上の立場から考へましても、鐵に對する方針と云ふものは、今少しく徹底して考へなければならぬではないか、之れに對して商工大臣は、果して如何なる御考へを持つて居られるか。

答者一商工大臣 (前略)其れから次の御尋の鐵の問題であります、此鐵の事に付きましては、先

日當議場に於て説明を致しましたので、今又之を繰返すの必要は御座いますまい、即ち鐵の製品中相當の保護を加ふべきものに對しては、今回の關稅に對して調節が致してあるのであります、其關稅を見てないものに對しては、別段の手段を執ると云ふ事は先達つて此處で申上げた事に依つて御諒解を願ひたいと存じます。

(其三)問者阪東幸太郎君 (前略)次に私は鐵の問題を御伺致します、鐵の自給策と云ふ事に就ては政府に於て色々研究せられて居る事は承知して居ります、所が統計に依りますと云ふと、我國の鐵の需要高が170萬噸、之れに對する生産高が僅に70萬噸即ち約100萬噸の不足である、之れを如何に自給するかと云ふ事の問題であらうと思ひます、或は關稅の引上を主張する者があり、或は生産者に對して補助をすべしと云ふ説もあります、其等も皆御尤であります、私は其よりも一つの根本問題を御伺したいのであります、即ち私の御伺するのは原料の問題であります、専門家の説く所に依りますと云ふと日本の原鑛石は其の含有量が百分の50以上のものは少い之れを百分の70以上ある所の支那の原鑛石とは到底比較にならない、殊に支那は勞銀の安い關係から、日本着1噸約10圓内外を以て現に輸入をして居るのである、故に若しも日本に假令「パーセンテージ」の高い原鑛石が無くとも、支那の原鑛石が安全に繼續して輸入するならば何等憂ふる所はない、斯う云ふ事を唱へる人があるのであります、私も其れは誠に御尤であらうと思ふ、即ち英國も獨逸も原鑛石に付いては約5割は之れを輸入に仰いで居る、又白耳義は殆ど全部を外國の輸入に仰いで居るのである、而も此諸國は共に鐵の大なる産國であります、尤も現在支那の安い原鑛石使用をしても、外國品の壓迫を受けて居るのであるが、其れは當業者の力を以て色々立行く途を發見するであらうと思ひます、若しも支那政府なり、各省なりの方針の變更に因つて此安價の原鑛石が日本に輸入しなくなつたらば、即ち日本の此製鐵業と云ふものは立行く根本が破壊される事になります、是れに於て政府なり、若くは各省なり或は鑛山主と何等かの契約を結んで將來永く原鑛石を輸入する方法を立て、居るかどうかと云ふ事を御伺するのであります。(下略)

答者商工大臣 阪東君の御尋に御答を致します、少し聽漏したかも知れませぬが、若し間違ひましたらば更に御尋を蒙ります、私が承りました要點は、鐵の自給自足は進んで行きよる様であるが其原料を相當確實に得る方法が立て居るや否やと云ふ事が其の御質問の要點であつた様に承知したのであります、先づ其點に對して御答を致します鐵の自給自足の大體は、先日此所で申上げましたから、只今は略して置きます、鐵の原料に付きましては支那、南洋等に於て相當長期に約束を致して居るものは、製鐵所に於てあります、又民營の方に於ても多少御座います、此外に朝鮮に於て原料を得て居るものも御座います、御承知の通り鐵の原料なるものは鑛石に鐵分を非常に含んで居りさいますれば、宜しいと云ふ事でなくして、其れは第一の事ではありますが、其れに加ふるに種々の方法を要するのであります、是れに於て現在の物では安心が付かないのでありまして、殊に海外に關する約束等は何等變更を生ずる事があると云ふ事を考へなければならぬ、故に鐵の自給自足の方針を確實に立てまするには、

此原料を得ると云ふ方法も第一に攻究しなければならぬ、即ち當業者をして徒に原料を得る事に競争をすると云ふが如き事の弊を避けて、互に共同一致の下に於て、其方法を講ずると云ふ手段を取つて居るのであります、是等に對しては前途確に見込みがあると思ひます、此外に於て本年の豫算の上にも内地の鑛石及砂鐵精鍊等に對して尙ほ充分の攻究を重ねます爲に豫算の要求を致して居るのであります即ち御質問の要旨に副ふ様な方法を進めつつあると御承知を願ひたいと存じます (拍手)

戦後佛國の財政經濟一斑の内生産の部 (滙外商報轉載大正14年10月21日 附在佛石井大使報告)

生産 國家の經濟的活動を察せんには其國の生産状態を知るに如かず以下佛國生産業を種類に依り區分して其戦前並戦後の統計を對照表示すべし(イ)石炭業、戰爭中佛蘭西 Nord 及 Pas-de-Calais の石炭業は獨逸の爲に大損害を受け戰爭直後其産出は1913年の4分の1に低下したる程なるが、今日は幾分戦前の夫れを超過せり最近6年間の産出額左の如し (單位千噸)

1919年	22,441	1920年	35,261	1921年	28,960
1922年	32,582	1923年	38,544	1924年	44,955

尙石炭産出の月額を見るに1924年及1925年6月迄の分左の如し。

1913年平均月額	3,720.000		3,784.079	1925年1月	4,171.595
1924年 1月	3,761.687	8	3,691.142	2	3,809.406
2	3,648.878	9	3,837.378	3	4,143.252
3	3,772.734	10	4,103.516	4	3,919.021
4	3,640.797	11	3,674.725	5	3,828.724
5	3,692.800	12	3,850.335	6	3,876.299
6	3,496.496	合計	44,954,567	合計	23,748,497

右表に付興味を惹くは1924年10月以來月額 400萬噸を超過する事 3 回なるが是れ佛國石炭業にとりて未聞の事なる事及1925年下半期が前半期同様ならば1924年以上に良好なる結果を見るべき事是なり(ロ)鐵工業、大戰以來佛蘭西の鐵工業は顯著なる發達を遂げたり、此發達が主として鐵鑛豐富なる lorraine の回復に俟つ事は勿論なり1913年及最近5年間鑄鐵並鋼鐵の年産額を見るに1924年の産額は1913年に比し鑄鐵に付ては47%鋼鐵に付ても略同率の増加を見たるに徴しても佛國鐵工業の進展の大なる事想像に餘りあるべし對照下の如し (單位千噸)

年	銑 鐵	鋼 鐵	年	銑 鐵	鋼 鐵
1913	5,207	4,687	1920	3,344	2,706
1921	3,448	3,099	1922	5,229	4,534
1923	5,432	5,110	1924	7,652	6,906

印度鑛業狀況 (滙外商報轉載大正14年12月6日附在カルカッタ岩手總領事報告)

最近印度政府の發表せる鑛山統計に依れば1924年の使用人數は1日平均258,217人前年に比し1割の増加に當れり此統計中167,719人は坑内労働者90,498人は坑外労働者尙其内男工 164,402 人女工 87,434 人なり、而して其大部分は炭坑労働者に屬し1924年は前年に比し4,487人増加し 187,088 人に達せり尙坑内婦人労働者の數は總計 25,676 人より 60,375 人に増加し内炭鑛坑内婦人約

35,000 を占む右婦人の増加に關し鑛山調査局長は爾來數年間坑夫不足の爲各鑛山は何れも尠からざる不便を感じ來りしが漸次婦人を使役するに依り之を緩和するを得べしと述べしと述べ居れり近年ジェリア炭田地方の労働者家屋には頗る進歩せる改良設備を施すに至れり、1924年鑛産物は各種共著増せるが石炭は約 150萬噸の増加をなし總額2117萬7,000噸に上れり、近年印度炭坑は機械力應用の發掘盛に行はるゝに至りしが同年石炭産出總額の約9分は其應用に依り發掘せられしものなり、鐵鑛産額は4割8分滿俺鑛石は2割2分雲母は2割8分を増加するに至りしが其中最注目すべきは Bauxite の激増せる事なり而して1924年の同鑛石の産出は 1923 年の産額の約3倍に當ると云ふ尙1924年中の従業員中重傷者233人に上り死亡281名（婦人労働者死亡37）而して其大部189件は炭坑に起りしものなり。

特許公報中鐵及非鐵金屬に關する件

鐵の硅化法

大正15年特許出願公告第7399號 第154類 10雜
 願書番號大正13年第9008號
 出願大正13年12月10日
 公告大正15年1月8日

發明者 鈴木庸生 今富祥一郎 尾間一彦 出願人 財團法人理化學研究所

發明の性質及目的 本發明は「アルカリー」若くは「アルカリー」土類の硅弗物又は其弗化物或は鹽化物を融劑とし攝氏 540 度乃至1200度に於て硅素或は多量の硅素を含有する硅素鐵と共に加熱し鐵を硅化せしむる方法に係り其目的とする處は比較的低溫度に於て極めて容易に任意の成形を有する鐵を硅化せしめんとするに在り。

アルミニウム接合用鐵

大正15年特許出願公告第7401號 第154類 3, 鐵着
 願書番號大正14年第3072號
 出願 " " 3月25日
 公告 " 15年1月8日

出願人發明者 大西久太郎

發明の性質及目的の要領、本發明は特許第62077號に改良を加へたるものにして錫82%乃至85%「アルミニウム」7%、亜鉛5%、銅1%、水銀1%乃至3%及銀1%乃至2%の6種の金屬を含有せる「アルミニウム」接合用鐵に係り其目的とする處は原特許に比し強靱にして而かも融解溫度低きのみならず熔着性強くして接合の良好なる製品を得んとするに在り。

銅又は「ニッケル」電鑄法

大正15年特許出願公告第7469號 第147類 10 電氣鍍金
 願書番號大正14年第8729號
 出願大正14年9月7日
 公告大正15年1月20日

發明者 西村茂 出願人 日本タイプライター株式會社

發明の性質及目的の要領 本發明は銅又はニッケルを電鑄する場合に或る間過時毎に短時間宛電流通過方向を反對ならしめ電鑄を行ふ方法に係り其目的とする處は陰極面に發生する水素の爲めに招致する諸種の害を極めて簡単に刈除するにあり。

特許請求の範圍 前記の目的を達する爲めに間過的に短時間宛電流通過方向を反對たらしめ陰極を一時的に陽極に變ずる事を特徴とする銅又はニッケル電鑄法

クロム銅を含有する耐酸合金鋼

大正15年特許出願公告第7533號 第154類 1合金 願書番號大正13年第4517號
出願 " 年7月1日
公 告 " 15年 1月25日

發明者 インゲニオイル、フランツ、ゾンメル 出願人 ポーレル兄弟合資會社

發明の性質及目的の要領 本發明は鋼鐵中に炭素0.1%乃至1.0%シリコン、2%乃至7%クロム、8%乃至30%銅1%乃至5%を含有せしめたる合金鋼に係り其目的とする處は鍛冶軋延等の加工をなし得べからしめ且つ多數の酸類に耐へ得べからしめたる合金鋼を得んとするに在り。

特許請求の範圍 本文に記載する如く炭素0.1%乃至1.0%シリコン 2%乃至 7%、クロム 8%乃至 30% 銅 1% 乃至 5% を含有せしめたる事を特徴とする耐酸合金鋼

銲接用電極又は桿の製造法

大正15年特許出願公告第7543號第 第154類 2類 2銲接及 願書番號大正12年第1652號
第201類 3類 3類 熔 接 出 願大正12年12月 1日
公 告 電 極 公 告大正15年 1月25日

出願人 發明者 アウガスタス、チャールス、ハイド

發明の性質及目的の要領 本發明は金屬片を槌狀に工作し之に銲劑又は其他の銲接所要材料を充填し然る後槌を丸めて完全なる管狀に構成せしめ以て銲接用の電極又は銲接桿を製造する方法に係り其目的とする處は容易に完全なる銲接金屬管狀電極又は桿を製造せんとするにあり。

特許請求の範圍 本文に詳記したる如く金屬片を槌狀に工作し之に熔劑心として、充填し然る後該金屬片を丸めて上記心材を包む如くなしたる銲接用電極又は桿の製造法

孟買瑛瑛鐵器需給狀況 (大正14年12月24日附在孟買渡部領事報告)

當地方に於て瑛瑛鐵器の需要相當の數量に達し、目下の形勢よりすれば將來益々需要あるものの如し雜貨中の有望商品として重視するに足る孟買港へ輸入する主要國は日本、獨逸、致須の三箇國に止り而して毎度其需要は輸入品に待つ現状なるが故に本邦製輸入品にして其品質優良價格低廉なれば他國製品を驅逐する事敢て難事に非ざるべし。然れども本邦製品は1919—20年 1,434,157 留比 1920—21年1,556,526 留比の輸入額を示し當時幾と市場を獨占せるの觀ありしも1921—1922年には 351,720 留比に減少し爾後稍恢復せる如きも未だ曩日の盛況を見ざるに獨逸、致須の輸入は漸次著増しつつあり蓋し兩國は復興或は新興の意氣を以て販路の擴張に致々たるものあり、1624—25年以後に至りては更に輸入増加著しきは市場の形勢より之を察知するを得前記主要輸入國よりの輸入價額左の如し。

國 名	1919年 1920	1920年 1921	1921年 1922	1922年 1923	1923年 1924
日 本	1,434,157	1,556,526	351,720	380,102	371,771
獨 乙		59,434	215,287	245,234	336,326

致 須			18.791	30.604	105.952
其 他	47.160	181.334	47.989	40.095	75.513
計	1.481.317	1 807.294	633.785	696.036	889.562

而して需要品の種類は印度は上下貧富の懸隔極めて著しく生活の様式は千差萬別なるを以て需要品の種類自ら上下兩様あり主として中流及下層階級に於て需要せらるゝ種類は皿、スープ皿、大コップ、コップ、ソーサー、匙、鉢等にして多しは硝子器陶磁器或はアルミニウム製品の代用として使用せらる其需要の主因は永續性あるに依るも所謂上等品としては Stew Pans, Chattle-Stands Soop-pots, Jugs of assortedsize, Fry-pan, Pudding plates, Basins 等なるが如し。品質は瑛瑛鐵器の用途より見て瑛瑛の附着力堅固なる事望ましく本邦製品は此點に於て非難あるものなり。色合竝模様、色合は白色のもの普通なるが如きも青色のものも賣行良好なりと聞く、下層階級向食卓のものには模様のものもあり嗜好は上品なるものより寧ろ華麗なるもの歓迎せらるゝ如く現今本邦より輸入せられ居る種類のは主として上中流向のものなるが故に更に一般下層階級の需要を充さむが爲所謂印度人向の商品を仕向くる必要あり深甚の研究を望む。値段は日、獨、致製品略同値にて時に本邦製品は3歩乃至5歩方廉價なるやに聞く。本邦製品販路擴張の根本策印度は本邦より遠隔の地なるに加へ信用調査機關不備なる爲土商の信用状態を識る事多大の困難あるに鑑み信用ある土商を撰び一手取引制の確立は此際最も望ましき次第なり本邦商に對する當地土商の口を極めて非難する所は見本と異なりたるものを送り來る事と動もすれば船積の遅延し勝のこと等なり尙本邦製品は折柄爲替上向きの徵候歴然たる場合に際會し居るを以て輸出値段の徹底的値下を斷行し品質優良にして土人の嗜好に合致せるものを仕向くるに努力すべし是等上述諸點を改善し得ば將來印度向本邦輸出品として有望なるべく販路擴張の事たる困難ならざるべし。

印度貿易年報の内鐵鋼に関する部⁽¹⁹²³⁾_(-24年) (大正14年11月28日附在カルカッタ岩手總領事報告)

印度貿易は1923—24年(以下本年)の1922—23年(以下前年)に引續きて好況を持續し財界の動搖去り緩慢ながら著しき恢復の状を呈し此調子にて進まば將來益々堅實なる發展を遂ぐべき見込みある事を示せり、而して全世界に亘る不景氣にも拘らず印度の輸出は戦前の平均21億9,500萬留比より34億9,000萬留比に上れり世界に於ける印度の重用輸出品の在荷は僅少にして前記本年輸出額は世界が現在の生活程度を維持する爲めには印度より購入すべき物資の數量は更に増加の余地ある事を示す一方輸入の滯貨は殆んど消化せられ季節風の時季も無難に過ぎ引續き第3年目の好收穫を得たり將來印度貿易の發展に對する障害と目すべきは唯歐州政情の不安定及印度輸出原料品の安値に對し其輸入製品の比較的高價なる事とす此點に關しては印度のみならず他の主として農業を以て立つ國には皆同様なり即ち本年に於て印度は其輸入に對し1913—14年に比較し9割多く支拂ひたるも同じく其輸出品に對しては僅に4割5分多くを受取りたるに過ぎず而して本年は尙賠償問題依然として未解決の儘に打過き1923年

春ルールの占領は歐洲の政界並財界を混亂せしめ殊に本年上半期には獨乙労働者の低廉なる賃銀は其爲替の激落と共に世界の各市場に於ける獨乙品の安値を生み其競争者を苦めたるが後半期に至り獨乙労働者強硬なる要求に依り漸く右賃銀が金貨に基きて支拂はるるに及び其競争力稍減少せり而して其と共に獨乙の所謂馬克問題は左程實際經濟上の問題とならざるに至れり又本年の終期に當り佛貨法急落したるも其末期には稍持直すに至れり印度の三大顧客は英、日本及米國なるが右三國の卸物價は比較的堅實にして英國にてはスタティスト誌の指數によれば134より135即ち3點上りしのみにして日本は日本銀行の指數に従へば260より273に上り米國はブラッドストリートの指數に従へば1.37より12.7に下り聯邦準備局の指數に従へば170より160に低下せり本年印度貿易に於て最顯著なる事實は前年に比し輸出5億留比増加し輸入5,000萬留比減少せる事なり然れども右輸出増加を示す數字は米國の棉花收穫不況の爲め價格騰貴による事多し故に2億7,000萬留比程度の割引をなし見る事を要す1913—14年の輸出入價格を基礎として計上せる輸出入統計左の如し。

輸 出 入	1913-14年	1919-20年	1920-21年	1921-22年	1922-23年	1923-24年
輸 入	183	101	142	124	138	120
輸 出	244	198	172	182	214	240
再輸出を除く 商品輸出入	427	299	314	306	352	360

右は印度貿易殊に輸出が着着戦前の状態に復しつつあるを示す而して1913年—14年の貿易は戦前の平均より遙に良好なる状態を示せる事は云ふ迄でもなし而して此所に鐵鋼に關す部分を記せば

(イ)金屬並同製品 本年同品輸入は前年の80萬1,300噸より80萬8,000噸に増加せり然れども價額は却て減少し1,000萬留比減の約2億433萬留比となれり内1億8,000萬留比は鐵並鋼鐵にして前年と同様輸入主要品第三位を占む若し金屬諸機械並工場機具鐵道用具並車輛及刃物並鐵器類其他雜用器具及馬車荷馬車以外の乗物等を合せば統計6億7,000萬留比に達し綿製品の7億6,000萬留比と興味ある對照を爲す。

(ロ)鐵並鋼鐵 1923年初四半期ルール地方の占領は獨乙の鋼鐵業を全く混亂に陥れ惹いては燃料供給杜絶の爲め佛國並ルクセンブルグの鋼鐵業の生産力を減退せしめたり従て是れ等地方より印度への供給思はしからず加之米國は内地の工業的發達の爲め國內の需要盛かんにして輸出却て減少し獨り英國は1921年の不景氣には大打撃にも不拘1923年に至り恢復の狀を示し印度に對する主要なる輸出國となれり右恢復の一大原因は同年價格著しく安定を得たる事是れなり英國は1921年最近四半世紀に於ける鋼鐵生産高の最低記録たる370萬噸より1922年には600萬噸に進み、1923年には850萬噸に進みたり因に1913年の生産高は700萬噸なりき1923年—24年の鉄鐵鑄鐵品及鋼鐵の英國白耳義及獨乙よりの月別輸入量額左の如し。

月 別	鉄 鐵(單位噸)			鑄鐵並製鋼(鉄鐵及古鐵を除く)		
	英 國	白耳義	獨 乙	英 國 單位千留比	白耳義 〃	獨 乙 〃
1923年 4月	330	65	—	1.38.01	33.20	12.65

1.03.90	21.56	6.97	"	5月	1.145	—	—
91.85	17.59	7.66	"	6	224	1	—
61.62	8.50	4.53	"	7	30	—	—
66.62	25.23	6.55	"	8	251	15	—
88.80	21.76	3.95	"	9	209	64	—
1.14.67	30.81	7.36	"	10	40	40	—
1.10.84	36.45	7.69	"	11	117	—	—
94.85	31.43	11.04	"	12	212	228	—
1.19.41	42.00	13.92		1924年 1月	107	72	—
1.02.09	31.53	14.98		" 2	294	15	—
1.00.76	33.62	17.46		" 3	325	—	15
11.97.42	3.33.68	114.79		1923-24 合計	3.284	482	15
10.56.23	3.72.58	1.78.01		1922-23 合計	8.736	3.228	622
11.21.76	3.25.88	1.22.67		1921-24年合計	7.858	13.492	1.172

本年鑄鐵並鋼鐵(銑鐵及古鐵を除く)の輸入は2%増加し74萬6,000噸となれるが價格は2%減少し前年の1億8130萬留比に比し1億7,860萬留比となれり亞鉛引鐵板は前年の12萬2,000噸3660萬留比より16萬5,000噸5170萬留比に増加し内英國は15萬900噸4990萬留比米國は150萬留比を供給せり。鋳力板も稍増加し4萬4,000噸1790萬留比となれり内英國は3萬7,500噸1520萬留比を占め米國は2600噸110萬留比を増加せり其他鐵板類は96,600噸より10萬8,000噸に増加せるも價額は1870萬留比より1810萬留比に減少せり内英國は800萬留比より1220萬留比に増加し白耳義は550萬留比より390萬留比に獨乙は410萬留比より260萬留比に減少せり。鋼鐵製棒及チャンネルは19萬2,000噸2950萬留比より17萬噸2460萬留比に下れり内白耳義は1,670萬留比より1560萬留比に英國は410萬留比より320萬留比に獨乙は580萬留比より370萬留比に下れり但しルクセンブルグは僅少の増加を示せり米國は前年に5,000噸以上なりしも本年は皆無なり鐵製棒及溝鐵の輸入は450萬留比より230萬留比に激減したり内英國は150萬留比より70萬留比に白耳義は240萬留比より130萬留比に獨乙は25萬留比より21萬留比に減少せり鋼鐵製橋梁用材料は其數量17%を増加し7萬7,500となれるも價額僅に3%を増加し1300萬留比となれり内英國は製造元の減價により740萬留比を維持し白耳義は420萬留比より490萬留比に増加し獨乙は50萬留比より20萬留比に減少せり門及止螺旋の輸入は340萬留比より279萬留比に減じ鑄鐵筒管並諸造作取付品も700萬留比より150萬留比並520萬留比より310萬留比に減少せり又右之内、門及止螺旋の輸入に於て米國及獨乙は夫々25萬比及20萬留比を減少せり箍及細片の輸入は590萬留比より700萬留比に増加し内英國は410萬留比より560萬留比に増加せり垣用鐵線電線網線以外の線條類の輸入も増加せり錨、々索及鋼砥は増加せるも價額は減少せり打鐵製筒管其他造作取付品も1440萬留比より840萬留比に減少せり内米國は420萬留比獨乙110萬留比英國100萬留比を減少せり獨乙米國は又ワイヤネールの輸入に於て夫々70萬留比及30萬留比を減少し白耳義は15萬留比増加せり電線の輸入は260萬留比より280萬留比に増加し内英國は220萬留比より280萬留比に増加せり釘鉋及座金の輸入は數量稍増加せるも價額は減少せり内英

國は 210萬留比瑞典 75 萬留比白耳義 55 萬留比を供給せり鉄鐵の輸入は 21.779 噸約130萬留比より 3.786噸425.000 留比に激減せり 1921—22年は 2萬3.000 噸なりき本年の供給は主に英國(32.084噸) 白耳義(482噸) 及諾威(101噸) によりて行はれたり右輸入激減の主原因は印度産鉄鐵供給の増加による即其供給は 1921—22年は 35 萬 8000 噸なりしが 1922—23 年には39萬4000噸 1923—24年には 71 萬 6.000 噸に増加せり之等の鐵鑛は主として馬來聯邦より來り其輸入は 40噸 7000 留比より 24.400 噸 40萬 7000留比に増加せり英國に於けるクリーヴランド第 3 號鉄鐵の價格は 1923 年 4 月始には 6 磅 7 志 6 片にして 1922 年 4 月には 4 磅 10 志なりき然るに 1923 年 4 月來より 10 月の終迄 4 磅 16 志に激落せり其後稍恢復し 1924 年 7 月の第 2 週迄 5 磅を維持し又下落し 3 月 27 日には 4 磅 11 志となれり白耳義鉄鐵は 1923 年 9 月中に 4 磅 19 志なりしが 10 月 18 日迄には 5 磅 3 志より 5 磅 5 志 6 片となれり然るに 1924 年 3 月 27 日迄には 4 磅 6 志より 4 磅 7 志 6 片となれり本年鐵鋼品の 價格は比較的安定し英國品は 4. 5. 6. 3 箇月 10 磅、11 月中迄には 9 磅 5 志より 9 磅 15 志となり其後は約 10 磅を維持せり又白耳義品は 9 月半 8 磅 7 志 6 片、11 月半は 7 磅 11 志 9 片より 7 磅 14 志となり其後下落して 1924 年 3 月 27 日には 7 磅 5 志となれり。

鐵鋼鐵輸入數量(單位噸)及割合%國別表

年	英國		獨乙		白耳義		米國		其他		合計 數量
	數量	割合	數量	割合	數量	割合	數量	割合	數量	割合	
1913—14	609	59.8	200	19.6	173	17.0	22	2.2	14	1.4	1.018
1919—20	269	63.0	1	0.2	13	3.1	135	31.6	9	2.1	427
1920—21	498	7.00	15	2.1	69	9.7	113	15.9	17	2.3	712
1921—22	280	45.7	60	9.8	160	26.1	84	13.7	29	4.7	613
1922—23	359	48.1	90	12.1	229	30.7	38	5.1	30	4.0	746
1923—24	429	56.7	61	8.0	217	28.7	18	2.4	31	4.2	756

歐洲 レールの生産合同 (電通)歐洲大戰前に存在して居た歐洲の軌條生産合同(カルテル)はこの程フランス、ドイツ、イギリス、ベルギー、ルクセンブルク等の製鐵業者がロンドンに集まつて協議した結果再興されることになつた。

製鐵業刷新の基調は爐體の改善 國策としての製鐵事業對策は目下東京において鐵鋼協議會が中心となつて進めてゐる原料共同購入共同販賣機關の設置關稅の引上等それぞれ具體化せんとしてゐるが、これ等は何れも製品に對する消極的對策で日本の鐵工業を發達させるのは如何にして鐵を安く生産し得るかにあり、各製鐵工場が外國と同じキヤラツキーを以てなほ安い製品を出す事の出來ないのは熔鑛、混鉄、製鋼に要する各爐體を閑却してゐるからであると八幡製鐵所研究所長田所芳秋氏が提唱し、最近大阪市における住友製鋼、神戸における川崎造船所葺合工場、神戸製鋼等を視察しその忘れられてゐる爐體の構造について警告を與へたが更に全國にわたり各製鐵工場を行脚して姑息的な日本冶鑛業に頂門の一針を投ずる事となつた、これについて田所博士は次ぎの如く語つてゐる。

日本は昔から耐火爐體に就て早く進んで居たがその代り間に合ふ儘にして置いて劃期的な進歩がなく現在では外國に比して非常に遜色がある。目下耐火煉瓦はオーストラリヤ、米國、ベルギー、ドイツなどから購入してゐるが數理的に品質の研究をせず鋼1噸について40噸の煉瓦を要し生産費の2割までを含む爐體を閉却されてゐるのは憂ふべき現象で日本の製鐵鋼事業のこれが先決問題であると思ふ。(大毎)

八幡製鐵先物約定 八幡製鐵所鋼材先物4月渡は三井外6商店に總數1萬1500噸3日契約された價格は前回とほぼ同値であつた同厚板は造船材の規約注文の多いために一部鐵商の新規注文は拒絶された。

八幡製鐵所特別會計受拂 八幡製鐵所特別會計改正案は目下大藏商工兩省に於て協議中で近々議會に提案さるゝ筈であるが政府が今回議會に發表したる13年度13年4月より14年3月迄(並に12年度12年4月より13年3月迄)の同特別會計受拂計算は左の如くである。(單位1,000圓)

		受 之 部			
		13年度	12年度	13年度	12年度
作業収入	71.487	57.550	前年度持越物品	49.893	42.352
収入濟	64.696	52.313	本年度受入物品	168.713	139.310
収入未濟	6.791	5.237	据置運轉資本補足金受入高	10.000	50.000
前年度持越現金	5.558	13.725	計	355.658	322.837
受入物品總價格	218.611	201.562			
		拂 之 部			
作業費	75.666	66.235	据置運轉資本補足金償還未額	55.000	50.000
支出濟	69.561	60.639	同償還額	55.000	50.000
支出未濟	9.105	6.195	計	354.791	322.398
拂出物品總價格	164.587	151.622	差引益金	866	438
損失物品總價格	37	41	固定及運轉資本額	124.647	110.409
据置運轉資本額	4.500	4.500	資本に對する利益場合	6厘9毛	3厘9毛

製鐵所會計法改正案に大藏省の希望條件 八幡製鐵所特別會計を鐵道會計の如く獨立會計とすべきことに就いては大藏省でも既に省議にて商工省案に同意し近日本議會に八幡製鐵所特別會計設置に關する法律案を提出すべく最近省議を開き之れが方法その他に就き商工省案を基礎として種々協議した結果大要左記2個の希望條件を付して商工省の同意を求むる事となり今回同省に回付した。

- 一、現在預金部より正金銀行を通じ 3,000 餘萬圓を漢冶萍鐵山に融通して居るが右は八幡製鐵所に肩替りすると共にその利子をも責任を以て製鐵所から支拂ふべき様にする事。
- 一、商工省では製鐵鋼調査會の答案に基き八幡製鐵所の會計を民間事業會社の如く明確ならしめる爲その財産の換價をして居るが右の勘定科目中製鐵所固定資産を 1,200 萬圓と見積つたことはいさゝ

か少額の嫌ひあること。

石炭規格統一計畫 川口町の国立燃料研究所の燃料協會では 15 年度の新事業として従來石炭は社が個々に規格を設けて居るため販賣業者は非常に損失を見て居るので今度規格統一を行ふことに決定近く委員會を設けて陸軍海軍鐵道商工の各省から政府側委員を出し民間からは三井、三菱その他から委員を出して 3 月までに調査研究をとげる豫定で目下各社の規格を参考として照會中で委員會は 3 月早々とならう、しかして政府の規格の統一は現在セメントがあるのみだが鐵と煉瓦は調査會で大體決定して居り今度石炭の規格が之れによつて統一さるれば政府はこの協會の統一規定をそのまま流用して實施するに至る模様である。

米子工業學校鋼鐵の分析試験計畫 鳥取縣立米子工業學校では來學年から生徒に鋼鐵の分析試験を行はしめることになり目下これが設備の完成を急いでゐるが右につき竹下校長は語る。

鋼鐵の分析試験用の冶金爐は過般當校工場の東側へ築造ををはり、も早島津商店へ注文中の舶來の天秤さへ到着すれば設備が完成するから鋼鐵の分析試験ばかりでなく依頼さへあれば日本刀の分析試験などもやつて見たいと思つてゐる、これは古來の日本刀は殆ど當地方から産出する因伯鐵を原料としたもので、従つて日本刀の分析試験を行ふことは非常に興味が深いからであるが、設備が一切とゞのつていよいよ分析試験を初めるのは何れ來る 4 月以後になるでせう。

尙この設備は當地方で未だ類を見ないやうであると。

八幡製鐵所鋼材品拂下方法改善に就て 八幡製鐵所では立石販賣部長着任以來お役所的な販賣方法の改善に努め、今回創立以來の秘密主義を排し在庫品の種類、數量等を絶えず調査し毎日ストック目録をつくつて一般商人に公開し、従來の面倒な假注文の方法を廢し商人と右から左へストック目録に照して正式契約を結ぶことにしその旨發表した、一部商人はいままでの方法によると、取消し自由の假注文によつて在庫品を知ると共に優先權によつて必要以上に在庫品を縮くゝり他店を牽制して思惑をやることができたのが、今回の改正によつて出來ぬ様になつた。これについて鈴木營業課長は一部の思惑商人は困るかも知れぬが商人全般からすれば在庫品調べの面倒な手續もいらず毎日正確な數量を簡単に知ることができて取引上有利と思ふ、製鐵所も一個の商人だからお客に對し商品を一目瞭然たらしめるとともに取引を簡便にして民衆化を圖ることになつたわけだ。

といつてゐるが三菱、三井、鈴木、森岡、岸本、安宅、岩井などの大口は大歡迎だが假注文中に金策をやつたやうな小口商人にとつては痛手らしい。

製鋼工程の大省略 元八幡製鐵所技師であつた村上義道氏は豫てあまり中間工程の多過ぎる日本の製鋼作業欠陥を除かんと欲し、現在轉爐平爐工場で鋼鐵化したものを鑄型に流し込んで之を分塊工場で切斷し、この鋼塊を再び加熱しロールにかけて鋼材をつくつてゐる煩雜な工程を省き、熔銑を鋼に精鍊しそのまま特殊の漏斗型のものでロールに流し込んで直ちにレール其他所要鋼材に仕上げてしまふ装置を研究中であつたが、今回愈々そのパテントを取つたので、製鐵所では製鋼界の革命をも

たらずものだとなし・近く氏の諒解を求め試験的に実施しようといふ計畫を立てゝゐる。もし之がうまく行けば原料、石炭、設備、時間、勞務上非常な節約が出来、鋼材一匁につき 15-6圓方は安くなつて外國品に匹適するととなり、外鐵を驅逐し得るやうにもなるから、國策問題でやかましい日本の製鐵業を救ふに至るだらうといはれて居る。(八幡發)

銑鐵市場在荷品種別表

(概 數)

		大正15年1月31日現在						三菱商業株式會社金屬部		合計	増減
品兼	種	京濱	名古屋	阪神	九州	滿鮮	北海道	其他	28.982	+ 6.879	
二	浦	5.360	1.613	8.720	212	13.077	—	—	11.628	+ 774	
釜	石	1.426	600	550	—	—	—	9.052	25.297	— 889	
輪	西	5.715	1.480	1.130	40	—	16.932	—	922	— 270	
漢	陽	—	80	810	32	—	—	—	256	—	
東	鐵	—	—	256	—	—	—	—	39.406	— 1.200	
鞍	山	1.830	830	3.400	625	32.721	—	—	40.614	— 2.628	
本	湖	602	640	35.567	—	2.805	—	—	80	—	
仙	人	80	—	—	—	—	—	—	370	— 20	
ク	リ	260	—	100	10	—	—	—	300	+ 100	
リ	マ	—	—	300	—	—	—	—	4.250	+ 940	
ヒ	タ	800	350	2.200	50	400	—	—	94	— 150	
マ	イ	—	—	50	44	—	—	—	1.760	+ 1.195	
ス	ン	140	20	1.600	—	—	—	—	20.095	— 1.050	
ベ	ゲ	1.945	—	18.000	150	—	—	—	15.054	— 60	
ン	ル	6.670	300	7.330	468	200	86	—	189.108	+ 2.811	
タ	タ	24.828	5.913	80.013	2.081	50.203	17.018	9.052	189.108	+ 2.811	
雜	計	24.828	5.913	80.013	2.081	50.203	17.018	9.052	189.108	+ 2.811	
合	増減	+ 998	+ 1.918	— 3.210	— 62	+ 4.808	— 1.234	+ 198	+ 2.811	—	

銑鐵市場在庫月報表

大正15年1月31日現在

三菱商事株式會社金屬部

市場	種	持 主 別			合計	前月比較
		生産筋	間屋筋	消費筋		
東	京	2.506	7.212	9.330	19.018	+ 1.358
横	濱	—	—	5.780	5.780	— 360
名	古	—	3.683	2.230	5.913	— 1.913
大	屋	—	12.800	10.100	22.900	— 2.550
神	阪	—	2.600	52.110	54.710	— 5.290
阪	戸	2.403	—	—	2.403	— 470
長	神	—	32	292	324	— 190
門	崎	—	377	1.380	1,757	— 472
大	司	29.934	6.322	870	37.126	— 11
函	連	—	45	76	121	—
釜	館	9.052	—	—	9.052	+ 198
室	石	16.897	—	—	16.897	— 1.234
兼	關	13.077	—	—	13.077	+ 4.819
計	浦	73.869	33.071	82.168	189.108	+ 2.811
前	計	+ 3.279	+ 1.712	— 2.180	+ 2.811	—
月	比較					